

飯山の伝統！！

職人の技が光る工芸品



内山紙のはがき

300年以上前、江戸時代初期に木島平村内山の萩原喜右工門人が、岐阜県から紙すきの技術を習得し、自分の家ですいたことが内山紙の始まりといわれている。

内山紙の原料には、楮(こうぞ)という木が使用されていて、楮だけで作る手すき和紙は、丈夫で透明度が高い。内山紙には、葉がすべて落ちてから刈り取った楮の枝を使用する。刈り取った楮を釜で蒸し、熱いうちに皮をはぎ取る。皮は束ねてつるし、楮の表面の皮やキズを「おか

き」という道具でとる。1月から2月の晴れた日、雪の上に楮を並べて薄く雪をかける。すると白くなる。皮をアルカリ性の薬品でやわらかく煮る。そして一晩水にさらす。次にゴミなどを水の中で取りのぞく。やわらかくなった楮を白でつく。楮を水に溶き、1枚1枚すく。その紙をプレスしてしぼり、はがして板に貼り乾かす。すると、内山紙が完成する。

飯山紙すき体験工房に行くとき、和紙に紅葉や色紙などの飾りつけができる。内山紙は自然な白さと丈夫さが特徴。飯山の雪ときれいな水が内山紙作りには欠かせない。

300年以上前、江戸時代初期に木島平村内山の萩原喜右工門人が、岐阜

県から紙すきの技術を習得し、自分の家ですいたことが内山紙の始まりといわれている。

内山紙の作り方

「まめちしき」by M・S&K・N



飯山市美術館は、平成9年5月開館。年間約7千人が来る。郷土にゆかりのある作家の作品を集めている。

美術館

飯山仏壇の歴史



飯山仏壇の工程についての説明

飯山に一般に地元では、1689年に甲府から寺瀬重高という人が来て、仏壇作りを手がけたのが始まりと言われている。

飯山に始まり、真宗時代から浄土伝来し、飯山を中心とする北信に広く根を降ろしている。このことは事実である。飯山の技術がここにある。



美術館のホール